

 乳幼児期からの  
東京都教育委員会  
平成 21 年度  
**子供の教育支援プロジェクト**

地域で子供の育ちを支える担い手を養成するためのカリキュラム作成委員会のまとめ

**地域で乳幼児期の子供と親を支える**  
**— 家庭教育支援の「担い手」養成のために —**

平成 22 年 3 月

 **東京都教育委員会**

## はじめに

近年、家庭の教育力の低下が指摘される中、平成 19 年 12 月、東京都生涯学習審議会は「乳幼児期からの子供の発達を地域で支えるための教育環境づくりの在り方について」答申しました。答申では、家庭の教育力向上のためには乳幼児期の子供と親の「社会的つながり」が重要であることを提起し、「乳幼児期からの子供の教育支援の必要性を全都に普及させる取組」と「乳幼児期からの子供の教育支援の取組を地域に定着させるための取組」を柱としたプロジェクトの実施について提言しました。

東京都教育委員会では、答申を受け、平成 20 年度から、家庭教育の機能及び地域教育の機能を高めることを通じて、人間形成の基礎となる乳幼児期からの子供の健やかな成長を支援する「乳幼児期からの子供の教育支援プロジェクト」に取り組んでいます。

このプロジェクトでは、取組の一つとして、乳幼児期からの子供の教育を支援するために、地域において乳幼児と親が、孤立しないで気軽に相談できるようなつながり（社会的つながり）をつくるなど、地域が一体となって家庭における教育を支援する仕組みづくりを進めています。

平成 21 年度には、その「社会的つながり」づくりを促す「支援チーム」の核となる「担い手」に必要な資質・能力について検討し、「担い手」養成研修のカリキュラムの開発と、それを踏まえた養成研修の実施に取り組みました。

本書では、今後、地域における「担い手」の養成が都内各地で実施されるよう、今年度実施した養成研修の取組について紹介をいたします。ぜひ御一読いただき、地域における家庭教育支援の取組、「担い手」養成に御活用ください。

## 目 次

はじめに	i
第1章 「担い手」とは	1
第2章 「担い手」に必要な資質・能力と学習項目	5
第3章 「担い手」養成研修のプログラム	9
第4章 平成21年度「地域における家庭教育支援チームの『担い手』 養成研修」の実施状況	12
第5章 区市町村での実施に向けて	19
おわりに	22
資料編	23

# 第1章 「担い手」とは

## 1 「担い手」について

都市化、核家族化、少子化、地縁的関係の希薄化等を背景として、子供には、夜更かしや欠食などの基本的な生活習慣の乱れ、子供同士の関わりの減少など対人関係の希薄化といった問題、また、親自身の孤立化や子育て文化の未継承、子育てに自信がない親や教育に関心が薄い親の増加などといった問題が生じている。

個々の家庭の教育機能が十分に発揮されるためには、「地域」を基盤とした乳幼児期の子供とその親の「社会的つながり」があることが重要である。しかし、この「社会的つながり」は自然発生的につくられるわけではないから、「社会的つながり」づくりを中心とした家庭教育支援の取組として、下記の3つの取組が必要となる。

① 地域や社会から孤立している親子に対し様々な社会のネットワークの中に参加することを動機付ける

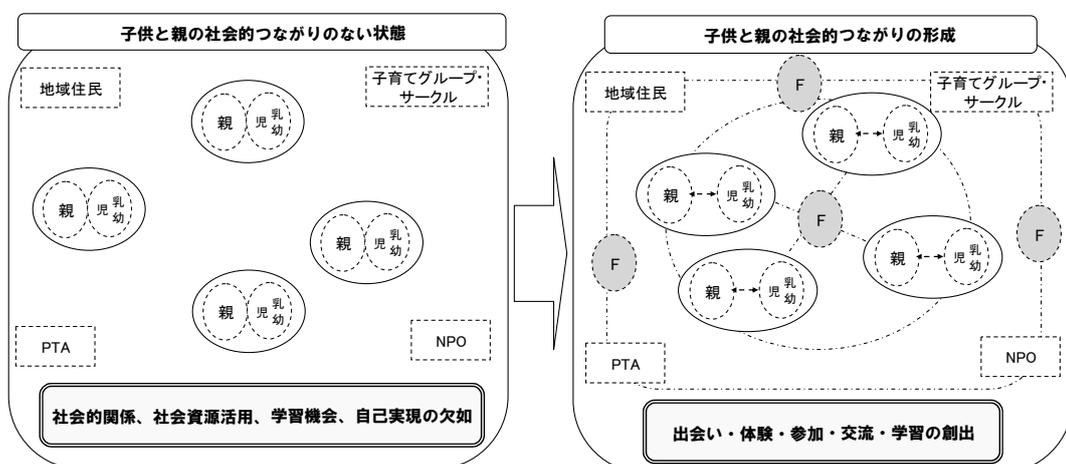
② 親同士がお互いに支えあう関係づくりを促す

③ 地域のNPOや子育てサークルなどの支援者たちとのネットワークを構築する

これらの取組を通して、地域の中で多様かつ持続的な「社会的つながり」を創り出す「仕掛けづくり」の役割を果たす人を、乳幼児期からの子供の教育支援プロジェクトでは地域の「担い手」と呼ぶこととし、親や地域住民（子育てサークル、NPO）の中にある「互いにつながりたい」という潜在的な欲求やそのための能力を引き出し、乳幼児期の子供を持つ親たちの社会的孤立といった問題を地域レベルで解決していく活動を行う。図1はその社会的つながりを形成する活動のイメージ図である。

【図1】 乳幼児期からの子供と親の社会的つながり形成前後のイメージ図

(出典：平成19年12月東京都生涯学習審議会第一次答申 p.15)



〔F〕は「地域の担い手(ファシリテーター)」を指す。基本的には地域住民や親自身、子育てグループ・サークル・NPO、PTAのメンバーなどがつながりづくりの担い手となる。

## 2 「家庭教育支援チーム」について

前述した図1のような地域の実状にあわせた乳幼児期からの子供の発達を軸に据えた地域における多様な主体のネットワークを形成するためには、地域の実状に応じた情報提供、相談、学習機会の提供等を実施するなど、乳幼児期の子供と親が様々な場や機会に参加することへの後押しをするための仕掛けづくりを行う役割を担う「担い手」を核とする「家庭教育支援チーム」を結成することが必要である。

この「家庭教育支援チーム」の構成メンバーは、地域住民や民生児童委員、PTA関係者、保育士等に加え、当該地域における教育・福祉・医療・保健機関の専門職の参加が考えられる。

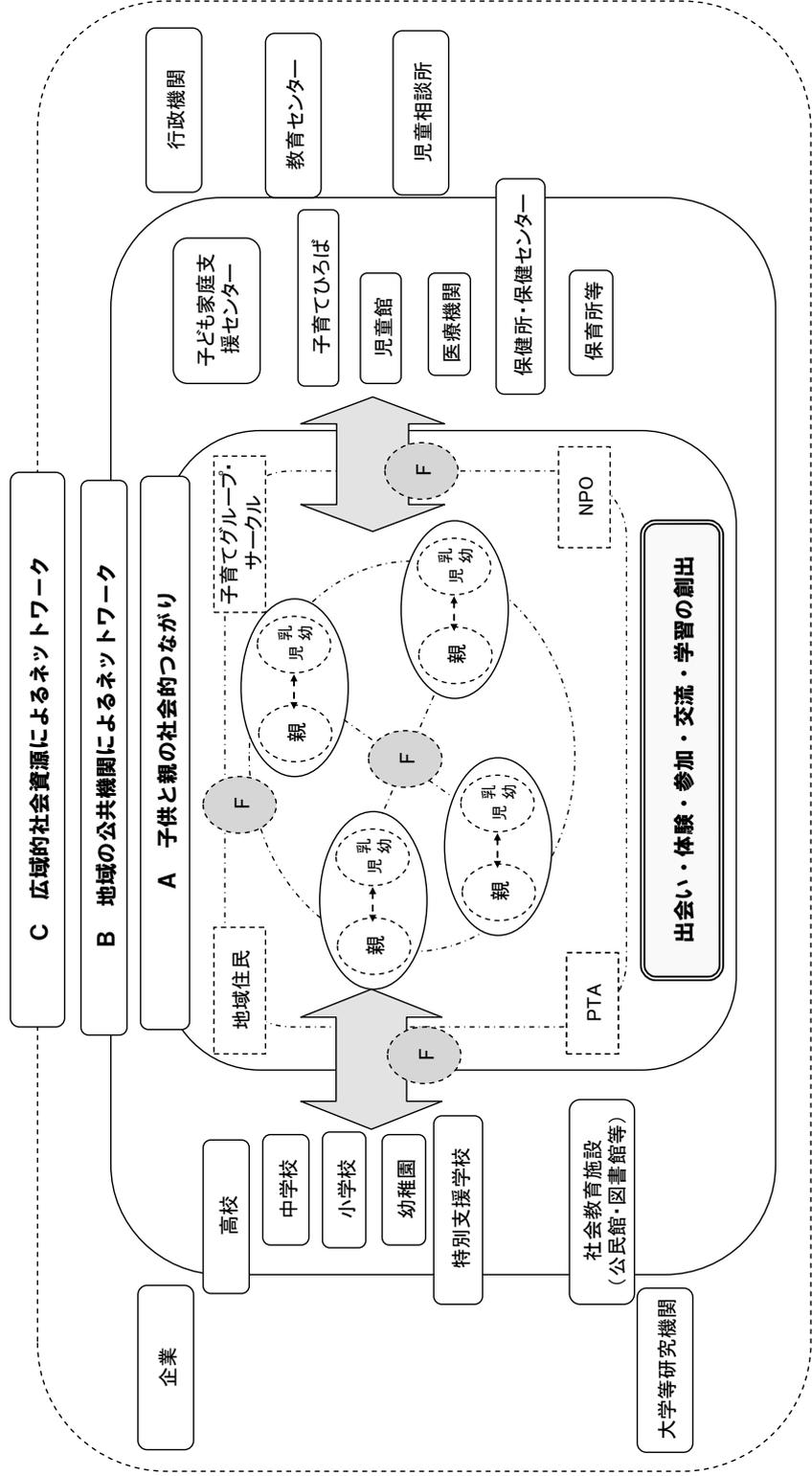
また、活動エリア(範囲)としては、乳幼児期の子供と親の生活圏を想定しており、概ね小学校区から中学校区程度が想定される。

この地域における家庭教育支援のネットワークのイメージを図示すると図2のようになる。

【図2】【乳幼児期からの子供の発達を軸に据えた地域における多様な主体のネットワークのイメージ図】

(出典：平成19年12月東京都生涯学習審議会第一次答申 p.16)

乳幼児期からの子供の発達を軸に据えた地域における多様な主体のネットワークの形成



### 3 「担い手」と「家庭教育支援チーム」の関係

具体的に「担い手」は誰が担うかという点については、地域住民のこともあるし、福祉や教育分野の専門職のこともあり、まさに地域の実状に依拠してである。教育や福祉といった分野・領域、行政やNPO、ボランティアといった立場・属性にかかわらず、「地域における家庭教育支援のネットワークを形成する」という目的が一致する地域の人々によって「家庭教育支援チーム」を形成していくことになる。さらに、形成したときのメンバーのみで固定されるものでなく、形成した後も主旨に賛同し、目的が一致する人はいつからでも参加できるような運営形態で展開されていくものである。

「担い手」は誰か一人だけがその役割を務めるのではなく、目的を共有する複数の地域の人々が、それぞれの立場や属性を活かしつつ「担い手」の役割を務めるのである。言い換えれば、このチームのメンバーの誰もが地域を基盤として乳幼児期の子供とその親の「社会的つながり」をつくる「担い手」の一人ということである。

そして、支援チームには、それぞれの地域において継続的に家庭教育支援ネットワークの中心的機能を発揮していくことが期待されるから、地域住民の方々がその核となることが肝要である。

こうした「家庭教育支援チーム」と「地域における家庭教育支援のネットワーク」の形成を通じて、子供が健やかに成長できる「その地域ならではの」教育環境ができ、乳幼児期の子供や親の「社会的つながり」がつけられる。また、地域の人々が教育環境を作り上げていくという点で、地域社会全体で子供を育てるという機運や環境が醸成させることになる。

上記のように、「担い手」を核とした「家庭教育支援チーム」の設置は、地域における活動を通じて、家庭の教育力と地域の教育力双方の向上を目指す取組をめざしているのである。

## 第2章 「担い手」に必要な資質・能力と学習項目

### 1 カリキュラム作成委員会の設置

東京都教育委員会は、「担い手」の養成研修の実施に向けて、平成21年度に「地域で子供の育ちを支える担い手を養成するためのカリキュラム作成委員会」を設置し、「担い手」に求める資質・能力や養成研修のカリキュラム等の検討を行い、養成研修プログラムの立案を行った。

(委員会の概要については、資料編 p.25 参照)

### 2 検討の経過

「地域で子供の育ちを支える担い手を養成するためのカリキュラム作成委員会」(以下、「委員会」という。)では、「担い手」に必要な資質・能力を洗い出し、それを内容・特質別に分類した。さらに、この分類をもとに、平成21年度に東京都教育委員会が実施する「担い手」養成のための基本となる研修プログラムの企画を行った。

具体的には、東京都内の各地域における家庭教育支援の「担い手」に求められる具体的な「資質・能力の領域」や「学習項目」はどのようなものかという点から、下記の検討を行った。

なお、検討の際には「平成20年度 社会教育を推進するコーディネーターの役割及び資質向上に関する調査研究報告書」(国立教育政策研究所社会教育実践研究センター発行)で示された「コーディネーター養成研修プログラムの構造モデル」(資料編 p.26 参照)を参考にした。

#### (1) カリキュラムを開発する際の基本的な考え方

委員会では、まず、「担い手」の役割や活動について議論を行い、次のような人物イメージを考えた。

- ・ 個々の家庭や団体や機関のエピソードを積み重ねて、多くの親子や家庭に共通する問題や課題を見出せること
- ・ 対症療法をしつつも、予防の視点を持つこと
- ・ 団体や機関の専門性や役割を生かしたつながりづくりを行う意識を持つこと
- ・ 社会資源を新たに開発し、「あったらいいな」を実現させる思考をすること
- ・ 地域の家庭教育支援のマネジメントプロセスを見通すことができること
- ・ 子供の発達や家庭教育を支援するという目的を共有するための技法を持つこと

このイメージをもとに、カリキュラムや資質・能力を検討するにあたって、養成研修のイメージを下記のように描いた。

- ① 地域で現に家庭教育支援に携わっている人を対象とする。
- ② 地域における家庭教育支援のネットワーク形成を担う人材を養成する。
- ③ 担い手となる人材一人一人の分野（教育や福祉等）、立場・属性（行政、NPO、ボランティア等）にかかわらず、「地域における家庭教育支援のネットワーク形成」という目標が一致する共通人材を育成する。
- ④ 将来を見通した活動のできる人材を養成する。
- ⑤ 受講者の地域を越えた人的ネットワークを形成する場とする。

## (2) 「担い手」に必要な資質・能力と学習項目

検討・協議の結果、「担い手」に必要な資質・能力として検討されたポイントは次のとおりである。

- 「担い手」に必要な資質・能力を身につけるためには、「市民意識の向上」という観点で学習項目を検討し、プログラム化することが必要である。
- 資質・能力には、「家庭教育及びその支援に関する領域」と「家庭教育支援のコンピテンシー<sup>\*</sup>に関する領域」という大きく2つの領域がある。
- 「家庭教育及びその支援に関する領域」は、家庭教育支援活動の基礎領域として、現在の親子や家庭の現状、家庭教育と社会教育の関係などの「家庭教育・子育てに関する基礎」、家庭教育支援の意義や方法などの「家庭教育支援に関する基礎」、また、「担い手」の役割や活動範囲などの『「担い手」の意義と役割』、子供の心身や社会性の発達などの「子供の発達に関する基礎」など、6つの学習項目に分けられる。
- 「家庭教育支援のコンピテンシーに関する領域」は、地域で組織的に活動するために、地域情報を調べる技術や提供の方法などの「地域情報の収集・提供」、活動の企画や組織運営に関することなどの「企画・マネジメント系」、人材や機関をつなぐマッチングやネットワークの方法などの「コーディネート系」の3つの領域があり、それぞれ2～3の学習項目に分けられる。

このようなことを議論・確認しながら、「担い手」に必要な資質・能力を洗い出し、精査しつつ、最終的に『「担い手」に必要な資質・能力と学習項目一覧』（表1）としてまとめた。

---

<sup>\*</sup>コンピテンシー：成果を生む行動特性、能力

【表1】「担い手」に必要な資質・能力と学習項目一覧

区分1	区分2	資質・能力の領域	学習項目番号	学習項目	「担い手」養成研修で盛り込む具体的な研修(学習)内容の例
家庭教育及びその支援に関する領域	A	基礎領域	1	「担い手」と「家庭教育支援チーム」	<ul style="list-style-type: none"> <li>○「担い手」と「家庭教育支援チーム」の意義</li> <li>○「担い手」の役割と心構え(市民性の観点から)</li> <li>○「担い手」の活動範囲(市民性の観点から)</li> <li>○「家庭教育支援チーム」の役割と機能</li> </ul>
			2	家庭教育・子育てに関する基礎	<ul style="list-style-type: none"> <li>○現在の親子・家庭の現状</li> <li>○子育て文化継承の現状</li> <li>○教育の視点から見る子供・大人・家族・家庭</li> <li>○「学び」に対する理解</li> <li>○家庭教育と社会教育・生涯学習</li> </ul>
			3	家庭教育支援に関する基礎	<ul style="list-style-type: none"> <li>○家庭教育支援の意義</li> <li>○家庭教育支援の方法(親の学習の多様な方法)</li> </ul>
			4	家庭教育・子育て支援の制度・施策・事業	<ul style="list-style-type: none"> <li>○国・都・当該地域における家庭教育支援に関する施策・事業</li> <li>○国・都・当該地域における子育て支援に関する施策・事業</li> <li>○家庭教育・子育ての支援に関する地域住民の活動</li> </ul>
			5	子供の発達に関する基礎	<ul style="list-style-type: none"> <li>○子供の心身の発達(脳科学の観点から)</li> <li>○子供の社会性の発達(脳科学の観点から)</li> </ul>
			6	家庭教育・子育てと人権	<ul style="list-style-type: none"> <li>○人権感覚・人権意識</li> <li>○子どもの人権</li> <li>○守秘義務と通告義務</li> </ul>
家庭教育支援のコンピテンシーに関する領域	B	地域情報の収集・提供	1	地域情報の収集法	<ul style="list-style-type: none"> <li>○地域情報の種類</li> <li>○地域情報を調べる技術</li> <li>○調査の方法</li> </ul>
			2	地域情報の提供	<ul style="list-style-type: none"> <li>○地域情報の分類・整理法</li> <li>○地域情報の活用法</li> <li>○情報提供の方法</li> </ul>
	C	企画・マネジメント系	1	活動の企画と評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>○地域における課題の発見・把握の方法</li> <li>○企画立案の技術</li> <li>○地域資源の開拓・活用の方法</li> <li>○支援グループ組織化の方法</li> <li>○協働提案の方法</li> <li>○効果の測定・評価の方法</li> </ul>
			2	組織マネジメント	<ul style="list-style-type: none"> <li>○組織運営の理論と方法</li> <li>○活動情報の発信方法(マスメディアの活用など)</li> <li>○リーダー論</li> <li>○グループワークの理論</li> <li>○人材育成の方法</li> </ul>
			3	個人情報(プライバシー)の保護	<ul style="list-style-type: none"> <li>○個人情報保護の考え方</li> <li>○個別援助とプライバシーの保護</li> </ul>
	D	コーディネート系	1	コーディネート	<ul style="list-style-type: none"> <li>○コーディネートの必要性</li> <li>○マッチングの技法</li> </ul>
			2	コミュニケーション	<ul style="list-style-type: none"> <li>○対象別コミュニケーションの技法(メンバー相互、対連携・協働対象先、対保護者など)</li> </ul>
			3	ネットワーク	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ネットワークの考え方(個人を支援するためのネットワークと事業・活動を支援するためのネットワーク)</li> <li>○ネットワーク形成の方法</li> <li>○ネットワークの効果測定と評価</li> </ul>

### (3) 養成研修プログラムの企画に当たってのポイント

具体的な養成研修プログラムの企画に当たっては次のポイントが挙げられる。

- 「担い手」の資質・能力として、知識やスキルは必要だが、地域で活動するためには、研修受講と実践活動の両方が必要である。
- 「担い手」養成は地域で活動する実践力を身に付けることが必要であるから、個々の領域や学習項目をそれぞれ個別に学習する以上に、他の分野や領域の関連を意識し、総合的に学習することが重要である。

## 第3章 「担い手」養成研修のプログラム

### 1 「担い手」養成研修プログラムの企画・立案

「担い手」を養成するための研修プログラムは、受講された方が、地域で活動する実践力を身に付けるために、個々の領域や学習項目を組み合わせる総合的に学習することが重要である。したがって、個々のプログラムは、どのようなねらいで、何と何を組み合わせ、何を学ぶようにするのか、という点を踏まえた企画・立案がポイントである。

養成研修プログラムの企画・立案の際の視点は下記のとおりである。

#### (1) プログラム全体の構成・編成の視点

プログラム全体の構成において、企画段階でまず検討したことは、学習項目の取捨選択である。

この養成研修は、地域の「担い手」として実践力を身に付けることが目的であり、地域の実状に応じた活動を創り出す研修内容にすることとした。

また、「担い手」養成の対象、つまり受講者の属性が、地域の自主的な活動実践者、行政委嘱委員、行政担当者等として家庭教育支援に関わる方々であることから、家庭教育支援や子育て支援に関する知識は一定程度身に付けている前提でプログラムを構成・編成した。特に、「担い手」及び「支援チーム」に対する理解促進と、その活動の具体的なイメージづくりを中心に編成した。

以上の点から、研修プログラム全体の編成方針を下記のように考えた。

- ① 子供・親・家庭の現状を理解し、家庭教育支援の現代的意義を理解する。
- ② 「担い手」及び「支援チーム」について、考え方と具体的な事例から理解する。
- ③ 具体的な区市町村や親子をもとに、「担い手」及び「支援チーム」の活動をイメージする。
- ④ 資質・能力の一つ一つはそれぞれ重要だが、実際の活動に際しては、2つ以上の資質・能力を総合した実践力が必要となるから、関連する領域の資質・能力を組み合わせるプログラム化する。

#### (2) 学習方法選択の視点

家庭教育支援や子育て支援に関する知識を一定程度身に付けている方が対象であるから、上記の①は、講義で知識として理解する、②は、「担い手」及び「支援

チーム」について、講義により考え方を理解するとともに、事例研究的に、先駆的な家庭教育支援の事例から地域でのネットワークづくりやコーディネートの方法について理解する、③は、グループワークとミニ・レクチャーという学習方法を用いて、受講者の日頃の活動の実践や経験を交換・交流しつつ、「担い手」及び「支援チーム」のイメージづくりを行うこととした。

特に、③は、受講者の日頃の地域における家庭教育支援等の経験や実感をグループワークにより深め、広げつつ、地域の実状に応じた「担い手」及び「支援チーム」の新たな具体的な活動を創り出すこととした。また、グループワークの進み具合と話し合われている内容や状況を見ながら、適宜、講師による5～10分程度のミニ・レクチャーを盛り込む方法を用いて、新たな活動に必要な考え方や知識、技法、スキルなどを学ぶプログラムとした。

### (3) テーマ・内容・学習方法と講師候補者の考え方

講師の候補者は、学習方法選択の視点を踏まえ、次の考え方で行った。

上記(1)の①については、基礎領域に関することを知識として理解することから、大学教員等の学識経験者に依頼することとした。

②については、「担い手」及び「支援チーム」について理解することから、「担い手」の考え方に関する内容の講義を都教育庁職員が行い、具体的な事例から「担い手」の具体的な活動を考える内容は、都内で先駆的な実践者の方に依頼することとした。

③については、「担い手」及び「支援チーム」のイメージづくりと具体的な活動づくりを行うプログラムを展開するため、講師にはグループワークの指導ができ、さらにミニ・レクチャーができる実践経験や学識が必要となることから、地域の実践者、行政職員、大学教員等の学識経験者の三者の方に依頼し、演習指導とあわせて、それぞれの立場からの助言やアイデアをいただくこととした。

以上が、都教育委員会が平成21年度に実施した「担い手」養成研修のプログラムを企画・立案した際の視点である。

これらの視点を踏まえて作成した基本となる研修プログラムは表2のとおりである。

【表2】 「担い手」養成研修の基本となるプログラム ーねらい、学習項目の組み合わせ等ー

	メインテーマ	テーマ・内容	講師	学習方法	ねらい	学習項目
1	子供の現状と発達の課題を学ぶ	現代の子供・親・家庭～子供の成長の視点から	・学識経験者	講義	現代の親子の生活の現状及び子供の発達について理解する。	A2 家庭教育・子育てに関する基礎 A5 子供の発達に関する基礎
2	「担い手」について理解する	家庭教育支援と「担い手」の役割	・事務局職員	講義	家庭教育支援の現代的意義と「担い手」の重要性を理解する。	A1 「担い手」と「家庭教育支援チーム」 A3 家庭教育支援に関する基礎
3	いろいろな地域事例から学ぶ	家庭教育を地域で支える「担い手」の動き方	・家庭教育支援活動実践者 ・学識経験者	事例発表&講義	「担い手」の活動を具体的にイメージする。	A1 「担い手」と「家庭教育支援チーム」 C2 組織マネジメント D1 コーディネート D3 ネットワーク
4		地域における家庭教育支援の現状と課題	・家庭教育支援活動実践者	情報交換と課題発見	受講者相互の情報交換と次回の演習の準備を行う。	A4 家庭教育・子育て支援の制度・施策・事業 D3 ネットワーク
5	課題をふまえて、今、地域に必要な「担い手」を考える	課題の共有化と「担い手」の活動の考え方	・家庭教育支援活動実践者 ・行政職員 ・学識経験者	グループワーク&ミニレクチャー	各自が地域において「担い手」として取り組み活動イメージする。	A1 「担い手」と「家庭教育支援チーム」 B1 地域情報の収集法 B2 地域情報の提供 C3 個人情報(プライバシー)の保護 D1 コーディネート
6		「担い手」の活動の実際	・家庭教育支援活動実践者 ・行政職員 ・学識経験者	グループワーク&ミニレクチャー	地域において「担い手」として取り組み、各自の具体的な活動のシナリオを作る。	A1 「担い手」と「家庭教育支援チーム」 C1 活動の企画と評価 C3 個人情報(プライバシー)の保護 D1 コーディネート D3 ネットワーク
7	まとめ	「担い手」への期待	・家庭教育支援活動実践者 ・行政職員 ・学識経験者		「担い手」としての自覚を促す。	A1 「担い手」と「家庭教育支援チーム」

## 第4章 平成21年度「地域における家庭教育支援チームの『担い手』養成研修」の実施状況

### 1 「地域における家庭教育支援チームの『担い手』養成研修」の実施概要

※実施要項は資料編(p.27)参照

#### (1) 趣旨

少子化や核家族化、親の孤立化等を背景に、家庭の教育力の向上が社会的な課題となっており、その解決のためには社会全体が家庭における子育てや教育を支援していくことが求められている。

とりわけ、乳幼児期からの子供の教育を支援するためには、地域において乳幼児と親が、孤立しないで気軽に相談できるようなつながり（社会的つながり）をつくるなど、地域が一体となって家庭における教育を支援する仕組みをつくる必要がある。その「社会的つながり」づくりを促す「支援チーム」\*の核となる「担い手」を養成する研修を実施する。

※「支援チーム」：地域の子育て支援団体や子育て経験者、PTA関係者、民生児童委員、青少年委員、社会教育施設や母子保健、子育て支援部署の行政職員等、地域の人材で構成され、子育てに関する情報や学習機会の提供、仲間づくり、身近な相談などを実施する。

#### (2) 対象

都内の地域において家庭教育を支援する「支援チーム」の核となる「担い手」の活動を行うことが期待される下記の方で、全日程（2日間）を受講できる方

- ① 地域において家庭教育支援関連の活動を行っている方（家庭教育支援関連の活動を行っている団体・サークルのリーダー等）
- ② 区市町村からの委嘱等により、地域において家庭教育支援関連の活動を行っている方（民生児童委員、青少年委員、PTA役員、子育てサポーター等）
- ③ 区市町村及び区市町村教育委員会において、家庭教育支援、母子保健、児童福祉等家庭教育支援関連の業務を担当する職員



グループワークで地域の資源を書き出す（A日程）

(3) 定員

A日程・B日程それぞれ80人

(4) 期間

受講希望者は下記のいずれかの日程を選択

< A日程 > 下記の2日間 時間帯はいずれも9時30分～16時30分

第1回 平成21年10月22日(木)

第2回 平成21年10月30日(金)

< B日程 > 下記の2日間 時間帯はいずれも9時30分～16時30分

第1回 平成21年11月9日(月)

第2回 平成21年11月16日(月)



グループワーク前にアイスブレイクで気持ちをほぐす（B日程）

(5) 会場

① A日程

第1回 10月22日(木) 国立オリンピック記念青少年総合センター

第2回 10月30日(金) 東京体育館

② B日程

第1回 11月9日(月) 三鷹産業プラザ

第2回 11月16日(月) 三鷹産業プラザ

(6) 受講申込み手続

区市町村教育委員会は、母子保健、児童福祉等家庭教育支援関連部署と連携し、受講後の活動の可能性等を考慮の上、受講が望ましいと認めた方を東京都教育委員会に推薦する。

(7) 受講に要する経費

受講料は無料。なお、受講に要する経費（交通費、食費等）は、受講者側の負担とする。

(8) 研修プログラム

表3のとおり

【表3】地域における家庭教育支援の「担い手」養成研修 プログラム

A 日程

<p>第1回</p> <p>10/22 (木)</p> <p>〈会場〉 国立オリンピック記念青少年総合センター棟102</p>	9:30	9:45	10:15	12:00	13:15	15:00	16:30
	受付	オリエンテーション	<p>「担い手」について理解する</p> <p>〈講義〉 家庭教育支援と「担い手」の役割</p> <p>東京都教育庁 地域教育支援部</p>	<p>いろいろな地域事例から学ぶ</p> <p>〈パネル・フォーラム〉 家庭教育を地域で支える「担い手」の動き方</p> <p>〈パネリスト〉 ○ゆったりの(新宿区) 運営委員会代表 小原聖子 ○中野区中部地域子ども家庭支援センター所長 三木恵子</p> <p>〈コーディネーター〉 駒沢女子短期大学教授 福川須美</p>	<p>昼食・休憩</p>	<p>子供の現状と発達の課題を学ぶ</p> <p>〈講義〉 現代の子供・親・家庭～子供の成長の視点から</p> <p>〈講師〉 和洋女子大学教授 鈴木みゆき</p>	<p>いろいろな地域事例から学ぶ</p> <p>〈情報交換と課題発見〉 地域における家庭教育支援の現状と課題</p> <p>〈講師〉 杉並区教育委員会社会教育スポーツ課 社会教育主事 齋藤尚久</p>
<p>第2回</p> <p>10/30 (金)</p> <p>〈会場〉 東京体育館第一会議室</p>	9:30	11:45 13:00				16:00	16:30
	受付	<p>課題をふまえて、今、地域に必要な「担い手」を考える</p>				<p>昼食・休憩</p>	<p>〈まとめ〉 「担い手」への期待</p>
		<p>〈グループワーク&amp;ミニ・レクチャー〉 課題の共有化と「担い手」の活動の考え方</p> <p>○ミニ・レクチャーの内容(予定)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・コーディネートの必要性</li> <li>・地域情報の収集と提供</li> <li>・組織化援助の技法</li> <li>・守秘義務と通告義務</li> </ul> <p>〈講師〉 特定非営利活動法人せたがや子育てネット 代表 松田妙子 杉並区教育委員会社会教育スポーツ課 社会教育主事 齋藤尚久 大正大学教授 西郷泰之</p>		<p>〈グループワーク&amp;ミニ・レクチャー〉 「担い手」の活動の実際</p> <p>○ミニ・レクチャーの内容(予定)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ネットワークのつくり方</li> <li>・コーディネート技法</li> <li>・連携・協働の進め方</li> <li>・サポートとプライバシー</li> </ul> <p>〈講師〉 特定非営利活動法人せたがや子育てネット 代表 松田妙子 杉並区教育委員会社会教育スポーツ課 社会教育主事 齋藤尚久 大正大学教授 西郷泰之</p>			

B 日程

<p>第1回</p> <p>11/9 (月)</p> <p>〈会場〉 三鷹産業プラザ703会議室</p>	9:30	9:45	11:30	12:00	13:15	15:00	16:30
	受付	オリエンテーション	<p>子供の現状と発達の課題を学ぶ</p> <p>〈講義〉 現代の子供・親・家庭～子供の成長の視点から</p> <p>〈講師〉 和洋女子大学教授 鈴木みゆき</p>	<p>「担い手」について理解する</p> <p>〈講義〉 家庭教育支援と「担い手」の役割</p> <p>東京都教育庁 地域教育支援部</p>	<p>昼食・休憩</p>	<p>いろいろな地域事例から学ぶ</p> <p>〈パネル・フォーラム〉 家庭教育を地域で支える「担い手」の動き方</p> <p>〈パネリスト〉 ○ゆったりの(新宿区) 運営委員会代表 小原聖子 ○稲城市子育てサポーターの会 田淵恭子 稲城市第四公民館 山路 孝</p> <p>〈コーディネーター〉 ルーテル学院大学専任講師 秋貞由美子</p>	<p>〈情報交換と課題発見〉 地域における家庭教育支援の現状と課題</p> <p>〈講師〉 特定非営利活動法人せたがや子育てネット 代表 松田妙子</p>
<p>第2回</p> <p>11/16 (月)</p> <p>〈会場〉 三鷹産業プラザ703会議室</p>	9:30	11:45 13:00				16:00	16:30
	受付	<p>課題をふまえて、今、地域に必要な「担い手」を考える</p>				<p>昼食・休憩</p>	<p>〈まとめ〉 「担い手」への期待</p>
		<p>〈グループワーク&amp;ミニ・レクチャー〉 課題の共有化と「担い手」の活動の考え方</p> <p>○ミニ・レクチャーの内容(予定)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・コーディネートの必要性</li> <li>・地域情報の収集と提供</li> <li>・組織化援助の技法</li> <li>・守秘義務と通告義務</li> </ul> <p>〈講師〉 特定非営利活動法人せたがや子育てネット 代表 松田妙子 杉並区教育委員会社会教育スポーツ課 社会教育主事 齋藤尚久 ルーテル学院大学専任講師 秋貞由美子</p>		<p>〈グループワーク&amp;ミニ・レクチャー〉 「担い手」の活動の実際</p> <p>○ミニ・レクチャーの内容(予定)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ネットワークのつくり方</li> <li>・コーディネート技法</li> <li>・連携・協働の進め方</li> <li>・サポートとプライバシー</li> </ul> <p>〈講師〉 特定非営利活動法人せたがや子育てネット 代表 松田妙子 杉並区教育委員会社会教育スポーツ課 社会教育主事 齋藤尚久 ルーテル学院大学専任講師 秋貞由美子</p>			

## 2 「地域における家庭教育支援チームの『担い手』養成研修」の実施状況

### (1) 受講者数

47名（A日程：19名 B日程：28名）

### (2) 所属別受講者数

No.	所 属	A日程	B日程	計
1	子育て支援団体(子育て支援サークル、NPO等)	2	3	5
2	区市町村社会教育委員	1	0	1
3	民生児童委員	1	1	2
4	子育てサポーター	1	4	5
5	ファミリーサポーター会員	1	0	1
6	家庭福祉員	1	0	1
7	次世代育成委員	1	1	2
8	区市町村教育委員会家庭教育支援所管課	3	3	6
9	区市町村教育委員会社会教育施設	2	2	4
10	区市町村首長部局生涯学習所管課	2	1	3
11	区市町村児童福祉・子育て支援所管課	1	3	4
12	子育て支援施設(子ども家庭支援センター等)	1	5	6
13	区市町村児童館	0	1	1
14	区市町村保育園	1	3	4
15	区市町村社会福祉協議会	1	0	1
16	その他	0	1	1
合 計		19	28	47

### (3) 区市町村別受講者数

No.	区市町村	A日程	B日程	計
1	千代田区	0	0	0
2	中央区	0	0	0
3	港区	0	0	0
4	新宿区	0	0	0
5	文京区	1	0	1
6	台東区	0	1	1
7	墨田区	0	0	0
8	江東区	0	0	0
9	品川区	1	0	1
10	目黒区	1	1	2
11	大田区	0	0	0
12	世田谷区	1	0	1
13	渋谷区	1	0	1
14	中野区	1	2	3
15	杉並区	3	1	4
16	豊島区	3	2	5
17	北区	0	0	0
18	荒川区	0	0	0
19	板橋区	0	0	0
20	練馬区	1	0	1
21	足立区	0	0	0
22	葛飾区	1	2	3
23	江戸川区	1	1	2

No.	区市町村	A日程	B日程	計
24	八王子市	1	1	2
25	立川市	0	3	3
26	武蔵野市	0	2	2
27	三鷹市	0	0	0
28	青梅市	0	0	0
29	府中市	0	0	0
30	昭島市	1	0	1
31	調布市	0	0	0
32	町田市	0	2	2
33	小金井市	0	0	0
34	小平市	0	0	0
35	日野市	0	2	2
36	東村山市	0	0	0
37	国分寺市	0	2	2
38	国立市	0	0	0
39	福生市	0	0	0
40	狛江市	0	0	0
41	東大和市	0	0	0
42	清瀬市	0	0	0
43	東久留米市	0	2	2
44	武蔵村山市	0	0	0
45	多摩市	0	0	0
46	稲城市	1	4	5
47	羽村市	0	0	0
48	あきる野市	0	0	0
49	西東京市	0	0	0

No.	区市町村	A日程	B日程	計
50	瑞穂町	1	0	1
51	日の出町	0	0	0
52	檜原村	0	0	0
53	奥多摩町	0	0	0
54	大島町	0	0	0
55	利島村	0	0	0
56	新島村	0	0	0
57	神津島村	0	0	0
58	三宅村	0	0	0
59	御蔵島村	0	0	0
60	八丈町	0	0	0
61	青ヶ島村	0	0	0
62	小笠原村	0	0	0
合 計		19	28	47

(4) 受講者アンケートの結果から

養成研修のねらいを、受講者が「担い手」としてどのように理解したかを把握するため、アンケートを実施した。

その結果の一部「2日間の全日程を通して」の部分を紹介する。

A日程・B日程の研修日程で、A日程で8割以上の方が、B日程で6割以上の方が、「担い手」のイメージを描いたり、必要な知識やスキルを身に付けたと回答している。

< 2日間の全日程を通して >

Q 「担い手」のイメージを思い描くことができましたか。

	A日程	B日程
5 できた	10	9
4 少しはできた	5	10
3 どちらともいえない	1	4
2 ほとんどできなかった	1	0
1 できなかった	0	0
無回答	0	0
計	17	23

Q あなたの地域における「担い手」の活動の具体例を思い浮かべることができましたか。

	A日程	B日程
5 できた	9	8
4 少しはできた	5	11
3 どちらともいえない	1	3
2 ほとんどできなかった	2	1
1 できなかった	0	0
無回答	0	0
計	17	23

Q 「担い手」になるための心構えができたと思いますか。

	A日程	B日程
5 そう思う	6	7
4 少しそう思う	8	8
3 どちらともいえない	2	8
2 あまり思わない	1	0
1 そう思わない	0	0
無回答	0	0
計	17	23

Q 「担い手」に必要な知識やスキルを身につけることができましたか。

	A日程	B日程
5 できた	4	7
4 少しはできた	10	7
3 どちらともいえない	2	9
2 ほとんどできなかった	1	0
1 できなかった	0	0
無回答	0	0
計	17	23

Q 「担い手」になったときに生かすことができそうですか。

	A日程	B日程
5 できそう	6	7
4 少しはできそう	8	10
3 どちらともいえない	2	6
2 あまりできそうもない	1	0
1 全くできそうもない	0	0
無回答	0	0
計	17	23

#### (5) 委員会での総括から

養成研修終了後、委員会で総括を行ったところ、さまざまな改善点や運営上の工夫を必要とする点が提起された。その主要なものは下記のとおりである。

- 「担い手」「支援チーム」は地域住民が核であり、その方々の活動が基本であることを繰り返し伝えていくことが必要である。
- 地域における支援チームの活動を創り出すことをグループワーク等により行うことから、受講者の相互理解を進めるため、アイスブレイクの時間をしっかり設けることが重要である。
- グループワークでは、さまざまな立場の方が話し合うことで相互の立場を理解することができるし、活動を創り出すためにそれぞれ意見やアイデアを出すことで、お互いの長所・短所、可能性・限界等を理解することができるため、地域の活動を考える際には欠かすことのできない創造的なプログラムである。
- 今回のグループワークでは、具体的な活動を作り出すためにある親子を想定して支援の方法を検討したが、極端すぎる事象や個別的なケースへの支援を考えると、個別的で専門的な対応が必要となるので、「支援チーム」や「担い手」の役割や活動範囲の中で扱うことのできる事象を想定することが重要である。
- 養成研修の最後のプログラムでは、受講者各自が「担い手」として今後どのような活動をしていくかを1枚の紙に描き、グループ内で発表して終了としたが、最後にもう一度全体で「担い手」「支援チーム」について確認するプログラムがあると、その意味を再確認できたり、活動への意欲が増すと考えられる。



グループワークの途中で地域情報の探し方について講師にアドバイスをいただく（A日程）



グループで作出した新たな活動を発表する（A日程）



グループワークの途中で考え方の整理の仕方についてアドバイスをいただく（B日程）



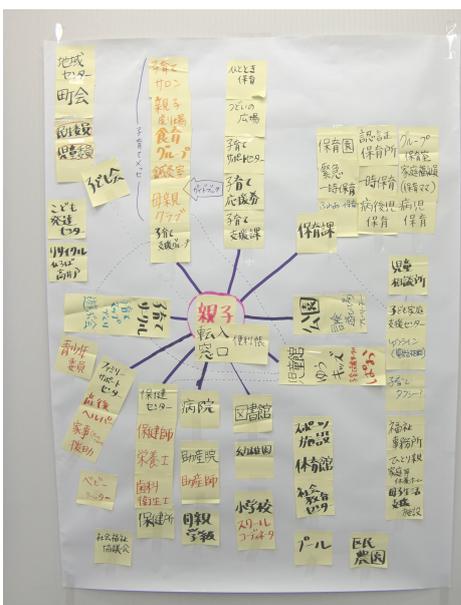
グループで作り出した新たな活動を発表する（B日程）



地域のさまざまな資源と新しい活動の見取り図（A日程）



地域のさまざまな資源と新しい活動の見取り図（B日程）



地域のさまざまな資源と新しい活動の見取り図（A日程）



地域のさまざまな資源と新しい活動の見取り図（B日程）

## 第5章 区市町村での実施に向けて

「担い手」は、地域の実状に応じて、乳幼児期の子供とその親の「社会的つながり」づくりを促す「支援チーム」の核として活動する役割が期待されるから、将来的には乳幼児期の子供を持つ親に最も身近な区市町村で養成されることが望ましい。

今年度、東京都教育委員会が実施した養成研修は、区市町村あるいは中学校区程度の広さの地域で、「担い手」として活動するために必要な項目・内容で構成したものである。そして、今後、区市町村において「担い手」養成研修を実施する際に、研修プログラムの基本モデルとして利用できるものとして、委員会で議論を重ねて開発したものである。したがって、区市町村では、一層、地域の実状を踏まえた構成・内容として企画・立案されることを期待しているものでもある。

この章では、今後、区市町村において研修プログラムを企画・立案するにあたって、さらに考慮すべき視点を挙げておく。

### 1 受講対象者に合った研修プログラムを企画する

「担い手」養成研修の主な対象は、地域で家庭教育支援や子育て支援の活動をしている人である。その人達は、家庭教育支援の問題や課題を解決したいという気持ちや考えや、さまざまなノウハウやスキルを持っていることが多いから、「日頃の活動の一步先の活動」として「担い手」の活動への関心と意欲につなげていく研修プログラムが重要である。

そのためには、受講者の関心と意欲を増すように、受講前に資料や情報を収集する等の事前課題を課すことも一案であるし、研修プログラムの一環として、次回までに受講者が活動している当該地域の家庭教育支援のための機関・施設、団体・人材、情報などの資源を調べて、当該地域の他の機関や団体の取組への理解を深めてくるなどの内容に関わる課題を課すという方法も考えられる。

さらには、受講後、それぞれの受講者の実践活動を持ち寄り、実践や経験を交流・交換し、解決策を探る機会を設けることで、実践活動に膨らみをもたらす方法などを検討することが期待される。

### 2 養成研修と実践活動の関係を理解する

日頃、地域において実践している人々が養成研修によって新たな知識やスキルを身に付け、また、先駆的な取組から学び、実践に活かしていく。さらに、実践の中での問題や課題等の解決策を養成研修の場で研修プログラムや他の実践者から学んでい

くといった、研修と実践を繰り返し行うことで「担い手」や「家庭教育支援チーム」の活動が定着し、機能を発揮していくのである。

このように、地域における家庭教育支援を担う人材は研修のみで養成できるものではなく、研修と実践の両方を通じて「担い手」や「家庭教育支援チーム」はその機能が発揮されることを理解して取り組むことが重要である。

### 3 「つなぐ」という間接的支援の役割を理解する

これまで述べてきたように、「担い手」や「家庭教育支援チーム」の重要な役割は家庭教育を支援する人々や機関・団体を「つなぐ」ということであり、その役割を果たすために必要な資質・能力は表1（p.7）に示したとおりである。この資質・能力は、直接的に親を支援するためのそれとは質が異なり、間接的な支援を行うための資質・能力が中心となることを、企画担当者は理解しておくことが必要である。

### 4 支援チームを形成する視点を持つ

地域における家庭教育支援の活動は、「担い手」の方々の取組が重要であるが、「家庭教育支援チーム」として取り組むことで、さまざまな状況にある家庭に応じた家庭教育支援の取組が可能となる。さらにチームとして取り組むことにより、地域におけるネットワークが重層的なものとなり、地域の教育機能を高め、地域の教育力を高めることにつながっていくのである。

「担い手」養成研修は、地域におけるネットワークを形成するための「家庭教育支援チーム」づくりの基礎作りとなるもので、支援チームづくりは段階的に取り組んでいく必要がある。

行政の家庭教育支援を担当する部署は、養成研修の企画の前の段階として、地域内に子供の教育支援に関心のある人や団体・機関がどのようなものがあるかを把握し、リストアップすることが最初のステップである。子供の教育支援に関心のある人達の思いや力を結集して、機能を発揮しようとするのが支援チームであるから、地域住民の自主的な団体や行政委嘱委員など、行政の所管や対象にこだわらず、幅広く把握する必要がある。

子供の教育支援に携わる人達の問題意識は必ずしも同じではないが、「地域全体で子供を育てるために地域における家庭教育支援のネットワークを形成する」という目的を共有し、それぞれの専門性や特徴を生かした具体的な活動に取り組むことが期待される。そのためには、まずは一堂に会して、それぞれの現状や問題意識、課題を出し合った後に、グループワーク、ワークショップなどの方法を用いて、「担い手」を

核とした支援チーム形成の合意を図っていくことが次のステップとなる。

その後、家庭教育支援チームとしての活動が始まったら、家庭教育支援の部署は、支援チームが徐々に自主的・自立的に、そして継続的な取組となるように支援することが次のステップとなる。

「担い手」養成研修は、家庭教育支援の考え方やスキルを身に付けることも重要であるが、家庭教育支援チームの形成がこのような流れ、ステップで進むことを理解し、地域において、自主的・自立的、そして継続的な家庭教育支援の活動を目指していることを理解するプログラム内容を企画することも肝要なのである。

## おわりに

現在、家庭教育支援の取組は、社会教育行政が取り組むべき社会的な重要課題の一つとなっています。

この冊子は、東京都教育委員会が平成 20 年度から取り組んでいる「乳幼児期からの子供の教育支援プロジェクト」の一つである「地域における家庭教育支援チームの『担い手』養成」の取組についてまとめたものです。

本文中でも述べましたが、「担い手」を核とした「家庭教育支援チーム」の設置は、乳幼児期の子供とその親の「社会的つながり」をつくることを目的としておりますが、「担い手」及び「家庭教育支援チーム」の活動が地域において活発に行われることにより、家庭の教育力と地域の教育力双方の向上を目指そうという取組でもあります。

また、東京都教育委員会では、平成 21 年度に地域における家庭教育支援のための具体的な活動プログラムの開発を目的に、「地域における乳幼児期と親の社会的つながりを促す試行的取組」に取り組みました。この取組も『地域プログラムの試行的取組 プログラム事例集』としてまとめましたので、本まとめとあわせてご覧いただき、「担い手」と「家庭教育支援チーム」の地域における活動イメージを描いていただきたいと思います。

このような取組や冊子を参考にしながら、ぜひ、区市町村教育委員会や公民館等社会教育施設において、「担い手」の養成や「家庭教育支援チーム」の設置に取り組んでいただき、地域における家庭教育支援の取組が一層積極的に展開されることを期待します。

## 資 料 編

資料 1 平成 21 年度「地域で子供の育ちを支える担い手を養成するためのカリキュラム作成委員会」

資料 2 コーディネーター養成研修プログラムの構造モデル

出典：国立教育政策研究所社会教育実践研究センター発行「平成 20 年度社会教育を推進するコーディネーターの役割及び資質向上に関する調査研究報告書」

資料 3 平成 21 年度乳幼児期からの子供の教育支援プロジェクト 地域における家庭教育支援チームの「担い手」養成研修 実施要項

**資料 1** 平成 21 年度「地域で子供の育ちを支える担い手を養成するためのカリキュラム作成委員会」

(1) 名称

地域で子供の育ちを支える担い手を養成するためのカリキュラム作成委員会

(2) 委員

西郷 泰之 大正大学 教授 ※委員長

松田 妙子 特定非営利活動法人せたがや子育てネット 代表理事

小原 聖子 ゆったりーの運営委員会 代表

齋藤 尚久 杉並区教育委員会事務局社会教育スポーツ課社会教育主事

(3) 委員会の開催経過

回	開催日時	主な検討事項
第 1 回	平成 21 年 6 月 23 日 (火)	○カリキュラム開発の方向性について ○「担い手」に必要な資質・能力について ○委員会及び研修会の年間計画について
第 2 回	平成 21 年 7 月 17 日 (金)	○「担い手」に必要な資質・能力について ○養成研修会について
第 3 回	平成 21 年 7 月 29 日 (水)	○「担い手」に必要な資質・能力について ○養成研修会について
第 4 回	平成 21 年 8 月 28 日 (金)	○「『担い手』に必要な資質・能力と学習項目一覧」(案)について ○「(仮称) 地域における家庭教育支援の「担い手」養成研修 プログラム (案)」について ○学習項目一覧とプログラム化について
第 5 回	平成 22 年 1 月 29 日 (金)	○担い手養成研修の総括 ○資質・向上と学習項目一覧(案)の追加・修正等

## 資料2 コーディネーター養成研修プログラムの構造モデル

出典：国立教育政策研究所社会教育実践研究センター発行「平成20年度社会教育を推進するコーディネーターの役割及び資質向上に関する調査研究報告書」p.27

資質・能力の領域	学習テーマ番号	学習テーマ	主な学習内容（主な学習方法）の例
1. 基礎領域	1 A	生涯学習・社会教育の基礎	社会教育の意義、学習者の特性、コミュニティ形成と生涯学習など（講義）
	1 B	当該地域（例：〇〇市）の生涯学習施策・社会教育	〇〇市の社会教育の取り組み、生涯学習施策（講義等）
	1 C	活動領域の基礎的事項（選択）	生涯学習支援、学習相談、地域の教育力支援、学校教育支援、家庭教育支援、体験活動・ボランティア活動、職業教育支援、男女共同参画学習等（講義・演習等）
	1 D	人権教育	人権についての基礎（講義、参加型学習等）
	1 E	個人情報保護と情報公開	プライバシーの保護、守秘義務、個人情報保護、情報公開についての基礎、関係法規について（講義）
2. コーディネート技法	2 A	コーディネーターの役割	〇〇市におけるコーディネーターの役割と任務、活動の範囲（講義）
	2 B	コーディネート技法	コーディネート・スキル（演習等による例題の訓練）
3. 地域情報の収集・組織化・提供	3 A	地域情報の収集法	地域情報の種類、情報源情報について、地域情報の収集のコツ（演習、実践事例紹介等）
	3 B	地域情報の組織化と提供	収集した地域情報の分類・整理法、活用法（演習）
4. コミュニケーション・スキル	4 A	コミュニケーション論	傾聴、共感、提案、説得等についてのコミュニケーション・スキルの理論（講義）
	4 B	カウンセリング・スキル	非指示的なカウンセリング・スキル（ロールプレイング等）
5. ネットワーク形成	5 A	ネットワークの理解、つくり方	ネットワーク形成、連携等（講義、実践事例紹介等）
	5 B	ネットワーク診断	ネットワーク診断スキル（演習）
6. 企画・設計・マネジメント	6 A	企画・設計・デザイン	シナリオ・プランニング等を導入した戦略的なプランニング・スキル（演習）
	6 B	P D C Aサイクルと評価	事業マネジメント、目標設定と評価の方法（講義、演習等）
	6 C	組織マネジメント	リーダー論、組織運営（講義、演習等）

## 資料3

### 平成21年度乳幼児期からの子供の教育支援プロジェクト

#### 地域における家庭教育支援チームの「担い手」養成研修 実施要項

#### 1 趣旨

少子化や核家族化、親の孤立化等を背景に、家庭の教育力の向上が社会的な課題となっており、その解決のためには社会全体が家庭における子育てや教育を支援していくことが求められています。

とりわけ、乳幼児期からの子供の教育を支援するためには、地域において乳幼児と親が、孤立しないで気軽に相談できるようなつながり（社会的つながり）をつくるなど、地域が一体となって家庭における教育を支援する仕組みをつくる必要があります。その「社会的つながり」づくりを促す「支援チーム」\*の核となる「担い手」を養成する研修を実施します。

※「支援チーム」：地域の子育て支援団体や子育て経験者、PTA関係者、民生児童委員、青少年委員、社会教育施設や母子保健、子育て支援部署の行政職員等、地域の人材で構成され、子育てに関する情報や学習機会の提供、仲間づくり、身近な相談などを実施する。

#### 2 主催

東京都教育委員会

#### 3 対象

都内の地域において家庭教育を支援する「支援チーム」の核となる「担い手」の活動を行うことが期待される下記の方で、全日程（2日間）を受講できる方

- (1) 地域において家庭教育支援関連の活動を行っている方（家庭教育支援関連の活動を行っている団体・サークルのリーダー等）
- (2) 区市町村からの委嘱等により、地域において家庭教育支援関連の活動を行っている方（民生児童委員、青少年委員、PTA役員、子育てサポーター等）
- (3) 区市町村及び区市町村教育委員会において、家庭教育支援、母子保健、児童福祉等家庭教育支援関連の業務を担当する職員

#### 4 定員

A日程・B日程それぞれ80人

#### 5 期間

受講希望者は下記のいずれかの日程を選択してください。

< A日程 > 下記の2日間 時間帯はいずれも9時30分～16時30分

第1回 平成21年10月22日(木)

第2回 平成21年10月30日(金)

< B日程 > 下記の2日間 時間帯はいずれも9時30分～16時30分

第1回 平成21年11月9日(月)

第2回 平成21年11月16日(月)

## 6 会場

所在地等は6ページ以降を参照 →※6ページ以降は省略

### (1) A日程

- 第1回 10月22日(木) 国立オリンピック記念青少年総合センター センター棟 102  
第2回 10月30日(金) 東京体育館 第一会議室

### (2) B日程

- 第1回 11月9日(月) 三鷹産業プラザ 703 会議室  
第2回 11月16日(月) 三鷹産業プラザ 703 会議室

## 7 日程及び内容

別表のとおり(3ページ参照)

## 8 受講申込み手続

区市町村教育委員会は、母子保健、児童福祉等家庭教育支援関連部署と連携し、受講後の活動の可能性等を考慮の上、受講が望ましいと認めた方を東京都教育委員会に推薦してください。

推薦に当たっては、平成21年10月7日(水)[必着]までに、別紙1及び別紙2(4・5ページ)を、東京都教育庁地域教育支援部生涯学習課家庭教育支援担当あてに送付してください。

## 9 受講者の選定及び決定の通知

東京都教育委員会は、区市町村教育委員会からの推薦書等を基に受講者を決定します。その結果を推薦のあった区市町村教育委員会に通知します。

## 10 受講に要する経費

受講料は無料です。なお、受講に要する経費(交通費、食費等)は、受講者側の負担とします。

## 11 申込及び受講に際しての留意点

- (1) 本研修に関することは東京都教育庁地域教育支援部生涯学習課家庭教育支援担当あてに御連絡ください。
- (2) 本研修は、全日程(2日間)を受講することを原則とします。なお、A日程・B日程それぞれ一日ずつの受講はできません。

## 12 本研修に関する問い合わせ先

東京都教育庁地域教育支援部生涯学習課 家庭教育支援担当

〒163-8001 新宿区西新宿2-8-1

電話 03-5320-6859

E-mail s9000027@section.metro.tokyo.jp

地域における家庭教育支援チームの「担い手」養成研修 プログラム

A 日程

	9:30	9:45	10:15	12:00	13:15	15:00	16:30	
第1回 10/22 (木)  <会場> 国立オリンピック記念 青少年総合 センター棟 102	受付	オリエンテーション	「担い手」について 理解する  <講義> 家庭教育支援と 「担い手」の役 割  東京都教育庁 地域教育支援部	いろいろな地域事例から学ぶ  <パネル・フォーラム> 家庭教育を地域で支える「担い 手」の動き方  <パネリスト> ○ゆったりの(新宿区) 運営委員会代表 小原聖子 ○中野区中部地域子ども家庭支 援センター所長 三木恵子  <コーディネーター> 駒沢女子短期大学教授 福川須美	昼食・休憩	子供の現状と発達の課題を学ぶ  <講義> 現代の子供・親・家庭～子供の成長 の視点から  <講師> 和洋女子大学教授 鈴木みゆき	いろいろな地域事例から 学ぶ  <情報交換と課題発見> 地域における家庭教 育支援の現状と課題  <講師> 杉並区教育委員会社会 教育スポーツ課 社会 教育主事 齋藤尚久	閉 会
第2回 10/30 (金)  <会場> 東京体育館 第一会議室	受付	課題をふまえて、今、地域に必要な「担い手」を考える			昼食・休憩	<グループワーク&ミニ・レクチャー> 「担い手」の活動の実際 ○ミニ・レクチャーの内容(予定) ・ネットワークのつくり方 ・コーディネート技法 ・連携・協働の進め方 ・サポートとプライバシー  <講師> 特定非営利活動法人せたがや子育てネット 代表 松田妙子 杉並区教育委員会社会教育スポーツ課 社会教育主事 齋藤尚久 大正大学教授 西郷泰之	<まとめ> 「担い手」へ の期待	閉 会

B 日程

	9:30	9:45	11:30	12:00	13:15	15:00	16:30	
第1回 11/9 (月)  <会場> 三鷹産業ブ ラザ 703会議室	受付	オリエンテーション	子供の現状と発達の課題を学ぶ  <講義> 現代の子供・親・家庭～子供の 成長の視点から  <講師> 和洋女子大学教授 鈴木みゆき	「担い手」について 理解する  <講義> 家庭教育支援と 「担い手」の役 割  東京都教育庁 地域教育支援部	昼食・休憩	いろいろな地域事例から学ぶ  <パネル・フォーラム> 家庭教育を地域で支える「担い手」 の動き方  <パネリスト> ○ゆったりの(新宿区) 運営委員会代表 小原聖子 ○稲城市子育てサポーターの会 田淵恭子 稲城市第四公民館 山路 孝  <コーディネーター> ルーテル学院大学専任講師 秋貞由美子	<情報交換と課題発見> 地域における家庭教 育支援の現状と課題  <講師> 特定非営利活動法人せ たがや子育てネット 代表 松田妙子	閉 会
第2回 11/16 (月)  <会場> 三鷹産業ブ ラザ 703会議室	受付	課題をふまえて、今、地域に必要な「担い手」を考える			昼食・休憩	<グループワーク&ミニ・レクチャー> 「担い手」の活動の実際 ○ミニ・レクチャーの内容(予定) ・ネットワークのつくり方 ・コーディネート技法 ・連携・協働の進め方 ・サポートとプライバシー  <講師> 特定非営利活動法人せたがや子育てネット 代表 松田妙子 杉並区教育委員会社会教育スポーツ課 社会教育主事 齋藤尚久 ルーテル学院大学専任講師 秋貞由美子	<まとめ> 「担い手」へ の期待	閉 会

平成 2 1 年度地域における家庭教育支援チームの「担い手」養成研修 受講申込書

平成 2 1 年 月 日

平成 2 1 年度地域における家庭教育支援チームの「担い手」養成研修を受講したいので、下記により申し込みます。

受講希望日程 (該当に○)	A 日程 (平成 21 年 10 月 22 日 (木) 及び 30 日 (金) の 2 日間)  B 日程 (平成 21 年 11 月 9 日 (月) 及び 16 日 (月) の 2 日間)	
ふりがな		
氏 名		
勤務先 または 所属団体	名 称	
	職名・職種 ・ 役職等	
	所在地	〒 ※区市町村からの委嘱委員の場合は記入不要
	電 話	※区市町村からの委嘱委員の場合は記入不要
	F A X	※区市町村からの委嘱委員の場合は記入不要
	E-mail	※区市町村からの委嘱委員の場合は記入不要
現在の職務担当年数 または活動年数	年	

緊急連絡先電話番号 (インフルエンザ対応等のため)	
------------------------------	--

◎御記入いただいた情報はこの事業の目的以外には使用いたしません。

推 薦 書

平成 2 1 年 月 日

東京都教育庁地域教育支援部  
生涯学習課長 殿

区市町村教育委員会  
生涯学習・社会教育主管課長

平成 2 1 年度地域における家庭教育支援チームの  
「担い手」養成研修 受講者の推薦について

このことについて、下記のとおり、推薦いたします。

記

推薦 順位	氏 名	勤務先または所属団体名	希望日程 (A or B)
1			
2			
3			
4			
5			

連絡先課名	
担当者名	
電話番号	
F A X 番号	
E-mail	

平成21年度 乳幼児期からの子供の教育支援プロジェクト  
地域で子供の育ちを支える担い手を養成するためのカリキュラム作成委員会のまとめ

**地域で乳幼児期の子供と親を支える  
—家庭教育支援の「担い手」養成のために—**

東京都教育委員会印刷物登録 平成21年度第197号

発行 平成22年3月24日

編集・発行 東京都教育庁地域教育支援部生涯学習課  
〒163-8001 東京都新宿区西新宿2-8-1  
電話 03-5320-6859

印刷 鈴政印刷製本株式会社  
東京都台東区寿3-16-6  
電話 03-2841-6473